



2008年3月24日

各 位

会 社 名 日本電気硝子株式会社
 代 表 者 名 社 長 井筒 雄三
 コード番号 5214 東証・大証第一部
 問 合 せ 先 取締役常務執行役員 阿閉 正美
 TEL 077(537)1700

業績予想の修正等に関するお知らせ

1. 平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)業績予想の修正

第4四半期(平成20年1月1日～3月31日)の業績見通しを踏まえ、去る1月28日に公表した平成20年3月期の通期業績予想を次のとおり修正します。

(1) 連 結 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	365,000	97,000	94,000	50,000
今回修正予想(B)	367,000	97,500	94,000	48,500
増減額 (B-A)	+2,000	+500	±0	-1,500
増減率 (%)	+0.5	+0.5	-	-3.0
前期実績	336,410	84,585	81,425	40,358

(2) 単 独 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	300,000	89,000	89,000	51,000
今回修正予想(B)	303,000	89,000	90,000	51,000
増減額 (B-A)	+3,000	±0	+1,000	±0
増減率 (%)	+1.0	-	+1.1	-
前期実績	267,398	74,979	76,270	41,950

〈備 考〉

- ・ 第4四半期の売上げは、主力のFPD用ガラスの堅調な販売とガラスファイバ販売の増加により第3四半期(平成19年10月1日～12月31日)を上回ります。
- ・ 損益面でも、第4四半期は第3四半期に比べ大幅に好転する見込みです。
FPD用ガラスの販売増や生産性向上に加え、CRT用ガラスとPDP用ガラスの採算性改善、新設備の立上げ費用や開発費の減少が寄与します。
- ・ これらの結果、平成20年3月期業績は上表のとおり、前期に比べ増収・増益となる見込みです。

2. 平成21年3月期 第1四半期(平成20年4月1日～6月30日)の見通し

- ・ FPD用ガラスは、液晶用基板ガラスを中心に概ね堅調な市場環境が続く見通しです。
- ・ 新年度入りに伴い価格改定が予測されることに加え、原燃料価格の高騰、定期修繕設備の立上げ費用などの圧迫要因が見込まれ、税制改正に伴う減価償却期間(耐用年数)の短縮を前提とした減価償却費の増加を想定しています。
- ・ これらを考慮し、前年同期比較で売上げは15%～20%程度増加し、また営業利益も30%～50%程度増加する見通しです。第2四半期以降も、需要増を背景に生産能力の引上げと生産性改善等を通じて、前年同期に比べて業績の向上を見込んでおります。

なお、平成21年3月期の業績見通しについては、平成20年3月期決算発表(2008年4月下旬予定)の際に公表させていただく予定です。

上記の見通し数値は、現時点での合理的な判断によるものであり、実際の業績はこれらと異なる可能性があります。

以 上